

角田支局記者 田村賢心の Let's KAKUDA!

「それぞれの理由」

早いもので、角田市や丸森町などに甚大な被害をもたらした台風19号から10月12日で1年となります。節目の特集紙面に向け、取材に取り掛かりました。両市町で計11人が亡くなり、現在も1人が行方不明です。仮設住宅などに身を寄せている被災者は、現在も多くいます。災害の恐ろしさを世間が理解し、新たな悲劇を防ぐには、被災者の苦難や犠牲者・行方不明者の存在を一人一人が身近にとらえることが大事だ、との意識を取材の根底に置いています。

2008年に栗原市を襲った岩手・宮城内陸地震、11年の東日本大震災でも、自宅を失った方や、犠牲者・行方不明者の家族に話を聞きました。ショックや悲しみが癒えない時期に対応していただくのは、取材する側にも心苦しさがありません。

取材に応じてくれた理由を犠牲者・行方不明者の家族が語ってくれたことがありました。内陸地震の土石流で行方不明になった方の親族からは「自衛隊や消防、警察などの機関が自分たちのために捜索してくれている。世間に状況を公開すべきだと考えた」との言葉がありました。

津波で行方不明となった方の家族は「見つかるのを待ちながら、家族で前向きに歩むきっかけにしたい」と悲しみをこらえ、語ってくれました。ある県内沿岸部の町役場職員は職場で揺れに襲われ、避難誘導をした後に津波で亡くなりました。職員の奥さんは「夫は最期まで仕事を頑張った。その記録を残したい」と気丈に述べました。

取材する側の理念とは別に、犠牲者や行方不明者の家族らにもそれぞれに、取材を受けようとする理由があるということをお伝えしました。当然「話すのはつらい」と取材を断られる場合は、その気持ちにも配慮しなくてはなりません。それでも、報道で少しでも力になれることがあると信じ、台風から1年の現場を訪ね歩きたいと思えます。

河北新報角田支局 田村賢心 kakuda@po.kahoku.co.jp ※連絡の行き違い防止のため、配達関連のTEL 0224-62-1568/FAX 0224-62-0707 連絡は販売所までお願いいたします。→



昨年10月の台風で冠水した角田市役所周辺



冠水が2日余り続いた丸森町役場

編集後記

●GoToキャンペーンによいよ東京が加わりました。コロナウイルスの収束は相変わらず先が見えないままの見切り発車の様子にも感じますが、これで感染が広がることは必至です。自分の身は自分で守る！決して気を緩めることなく「三密にならないよう注意！」「マスク着用厳守！」。そしてまたまた心配なのが台風。今年の角田・丸森を襲った短時間集中豪雨。今年もその時期を迎えます。コロナや熱中症インフルエンザ対策とともに地震や豪雨災害に対する備えも怠りなき様！災害もコロナウイルスもそしてインフルエンザも「忘れた頃に」再び必ずやって来ます！！

次回「あんふいに」は10月25日(日)発行予定です。

☆皆様からのイベント情報等をお待ちしています。原稿は毎月二十日頃までに、当店へ直接お持ちいただくか、FAXまたはメールにてお送り下さい。

編集発行 河北新報目黒新聞店 〒981-1505 角田市角田字泉町137-2 フリーダイヤル (読むニュース) 0120-46-2004

皆様の元気のお手伝いを

月刊かほく あんふいに

第386号 令和2年10月号 【毎月最終日曜日】 発行予定

新型コロナウイルス感染症 経済対策企画
かくだ!美酒RUN
~美秋LUNCH同時開催~
大好評開催中!
おトクなテイクアウトも是非ご利用ください!!
2020 開催期間 9.25(金)~10.3(土)
+1チケット 1シート(3チケット) 4,000円
角田市にある飲食店が参加!

10月の新聞休刊日は10月12日(月)です
テレビ・ラジオ欄は前日10月11日(日)の朝刊でご確認ください。
※新聞休刊日は事務所も含め、全店休業日とさせていただきます。